



2020年3月期 決算説明会

2020年5月18日

株式会社日清製粉グループ本社



目 次



- I. 2020年3月期 実績
 - II. 新型コロナウイルス感染症拡大における
当社グループへの影響と対策
 - III. 2021年3月期 業績予想
 - IV. 長期ビジョン「NNI “Compass for the Future”」の取組み
- (参考) 小麦相場の状況



I. 2020年3月期 実績

1. 2020年3月期 実績

健康と信頼をお届けする



- ▶ 売上高は、豪州のAllied Pinnacle Pty Ltd.及びトオカツフーズ(株)の新規連結効果が大きく寄与し、**増収**
- ▶ 営業利益は、米国製粉事業の収益悪化、既存事業での人員増や物流費等のコストアップがあったものの、新規連結を含む中食・惣菜事業、医薬品原薬や設備工事の好調等によって、**増益**
- ▶ 業績予想に対しては、**新型コロナウイルス感染症の影響**もあり、家庭用食品の需要増が断続的に発生した一方、業務用食品素材や中食・惣菜の需要減、設備工事等の減速、国内外の物流費増加等で、**未達**

※金額は百万円未満切り捨て

(単位：百万円)	2020年3月期 実績	業績予想		前年実績	
			比		比
売上高	712,180	715,000	▲0.4%	565,343	+26.0%
海外売上高比率	23.3%	23.4%	—	18.3%	—
営業利益	28,852	29,500	▲2.2%	26,916	+7.2%
経常利益	31,434	31,000	+1.4%	32,062	▲2.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	22,407	22,000	+1.9%	22,268	+0.6%



Ⅱ. 新型コロナウイルス感染症拡大における 当社グループへの影響と対策

1. 当社グループの社会的使命を守るために

健康と信頼をお届けする



社会機能維持のため主要食糧等の安定供給を果たすことが、当社グループの使命、
且つ企業価値の源泉であり、これを守るべくBCPに基づき事業継続に取り組む

- ①**緊急体制への移行** ～ BCPに基づき、新型コロナウイルス感染症対策本部を設置。感染防御を徹底し緊急体制下での事業継続体制に移行
- ②**従業員の安全確保** ～ 緊急体制以降、在宅勤務体制をとると共に直ちに備蓄マスクを従業員に支給、検温・手指消毒を徹底し**従業員の感染を防御**
- ③**生産継続** ～ 食の安定供給のため**休日運転も含めフル稼働**を維持。必要に応じ、製造要員温存のため一時的に少人数体制にシフトし**供給継続を堅持**
- ④**原料確保** ～ 国家貿易の下、小麦の安定供給を最優先に、農水省とも緊密に連携し**常時2.3か月分の原料小麦**を備蓄。その他の**食品原料等も当面の必要量を確保**
- ⑤**物流維持** ～ 小麦粉物流の過半を占めるバルク輸送を守るべく、日本ロジテムを始め、**普段の協力関係の下での危機対応**を物流会社と一体で推進。家庭用食品の需要増に対応すべく、受注・配送のリードタイムを調整し**物流機能を維持**
- ⑥**顧客重視** ～ 最重要経営基盤である**お客様との信頼関係**を守り、お客様の生産・販売活動を支えるため、営業部門は**情報提供・配送調整**等を継続実施
- ⑦**財務基盤** ～ **事業の公共性**を踏まえた**危機対応力**と、**事業継続のレジリエンス**を念頭に、これまでも**強靱な財務基盤**を重視。今後も当社の社会・経済価値の持続性を確保

2. 当社グループの危機対応の仕組み

健康と信頼をお届けする



有事を想定した**日常的なリスクマネジメント**と**危機発生後のクライシスコントロール**
二段の構えで危機対応力の実効性を確保

← 日常管理（リスクマネジメント規程）

グループ本社リスクマネジメント委員会

企画部会

災害部会

海外安全対策部会

新型インフル
エンザBCP

主要7事業会社子会社
リスクマネジメント委員会

傘下企業の
指導・監督

グループ本社及び各事業会社の
連結子会社

リスクの
顕在化

緊急時（クライシスコントロール規程） →

「新型コロナウイルス感染症対策本部」設置

- ・クライシス発生後、迅速に体制移行し行動開始
- ・複数の情報伝達ルートが、重層的な管理体制を構築（対策本部／コールセンター／職制）

- ・1月中旬、中国外での感染者確認を受け対応準備に入り、1月下旬の人・人感染の報道を踏まえ、既存の「**新型インフルエンザ事業継続計画（BCP）**」を即時発動し、対策本部を設置
- ・各国マネジメントが、「**従業員とその家族の安全**」、「**食糧供給等の社会機能維持**」を最優先課題と位置づけ、東京本社と連携した危機管理体制に移行

3. 当社グループの危機対応行動（具体的施策）

健康と信頼をお届けする



グループ対応	感染予防の徹底	従業員の感染予防の徹底 ・検温（自宅・入場時）37.5度以上は事業場内への入場禁止 ・入場時の手洗い、手指消毒の実施、就業中は全員マスク着用、来場者にもマスク着用・検温を実施等
	勤務体制	緊急措置に基づき就業規則を速やかに変更 ・本社・営業部署は原則、全員を在宅勤務、時差出勤等にシフト ・経営会議を含め全会議体のWeb化推進、国内外への出張原則禁止
	その他感染予防対策	・週末の不要不急の外出を控えるよう指示 ・ゴールデンウィークは在宅を基本とする旨を指示等
	スタッフ、営業部署	最小限の出勤体制で業務を遂行 ・感染防止のため、全員が原則在宅勤務。出社の場合は担当役員が日別・業務別に承認 ・最重要経営基盤である、お客様との信頼関係を守り、お客様の生産・販売活動を支えるため、営業部門は情報提供・配送調整等を継続実施
各部門対応	事業会社ライン部署（工場以外）	感染予防を徹底し、安定供給のためのオペレーションを継続 ・需給管理・物流等、製品供給に対応する部署は、最小人数で出勤。時差出勤の最大活用 ・国家貿易の下、小麦の安定供給を最優先に、農水省とも連携し常時2.3か月分の原料小麦備蓄。その他の食品原料等も当面の必要量を確保 ・日本ロジテムを始め、普段の協力関係の下での危機対応を物流会社と一体で推進。家庭用食品の需要増に対応すべく、受注・配送のリードタイムを調整し物流機能維持。オフィスの分散やオペレーションチームを作って業務に対応することで部署内スタッフの濃厚接触を防止。感染者発生時のバックアップ体制も確保
	国内工場	安定供給の継続、強化 ・加工食品工場では家庭用加工食品の需要増に対応すべく、フル稼働を継続すると共に一部販売アイテムを休売し、生産効率を向上。また、業務用製品の製造ラインを家庭用製品に転用する等の創意工夫で、安定供給体制を強化 ・製粉工場では日常的なリスクマネジメントの中で、小麦粉の安定供給体制を既に構築しており、感染予防の基本動作を徹底しつつ、需要変動への柔軟な対応を継続
	海外事業場	国内と同様に社員の安全確保と安定供給の継続、強化 ・海外駐在員の帯同家族は全員帰国。駐在員も事業継続に必要な最低限の人員を除き、一時帰国 ・事態が深刻な米国では、製造要員温存のため一時的に少人数での操業体制にシフトし、温存要員によるバックアップチームを編成。供給継続を堅持する体制に移行 ・パスタ、パスタソース等、海外の生産拠点での生産継続と国内での輸入業務の継続

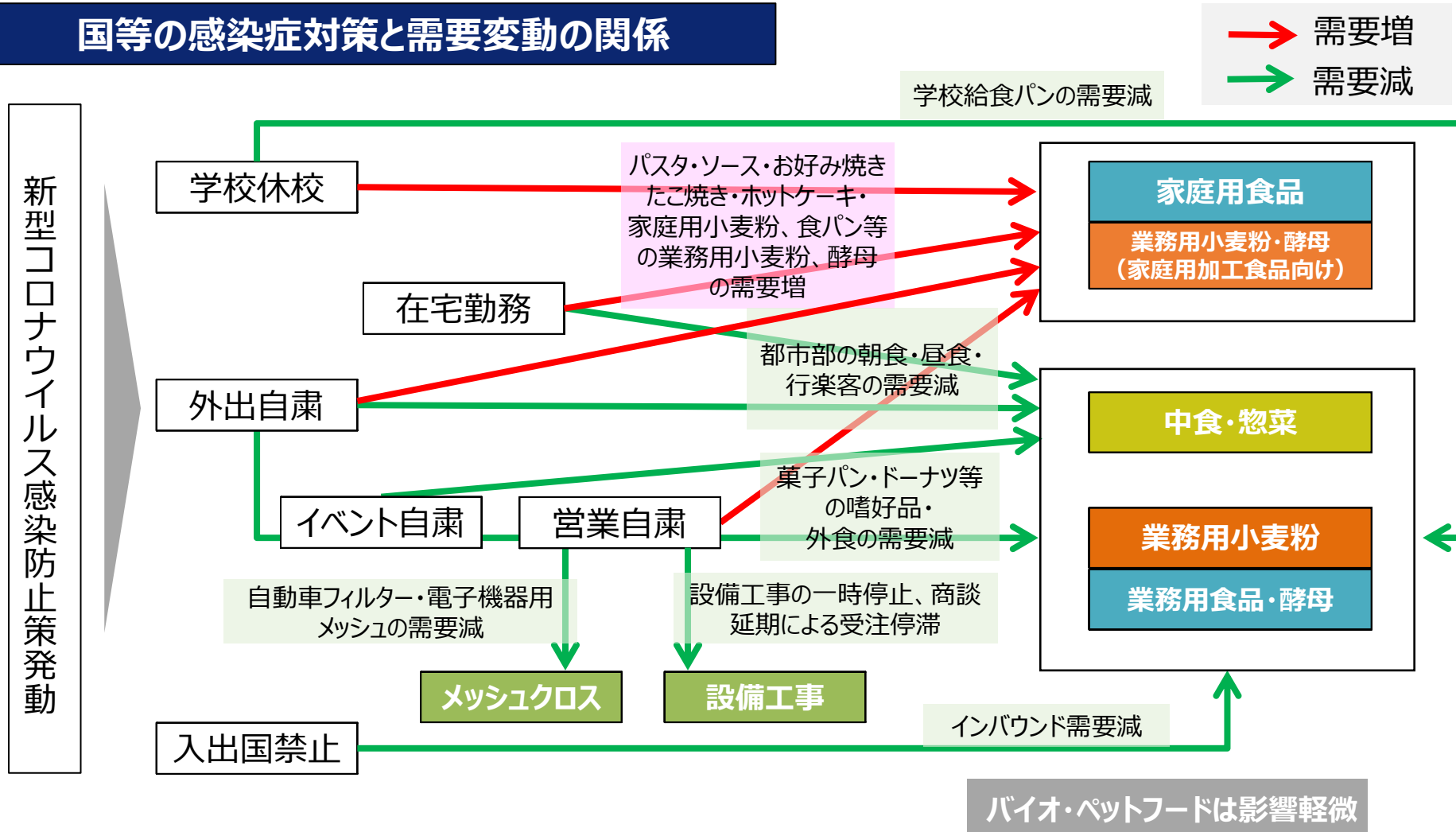
4. 新型コロナウイルス影響（国内） ～ 国等の感染症対策の需要への影響 ～

健康と信頼をお届けする

日清製粉グループ

国等の新型コロナウイルス感染症対策に伴う需要への影響は
当社の事業ポートフォリオに**プラス面**、**マイナス面**の両面で発生

国等の感染症対策と需要変動の関係



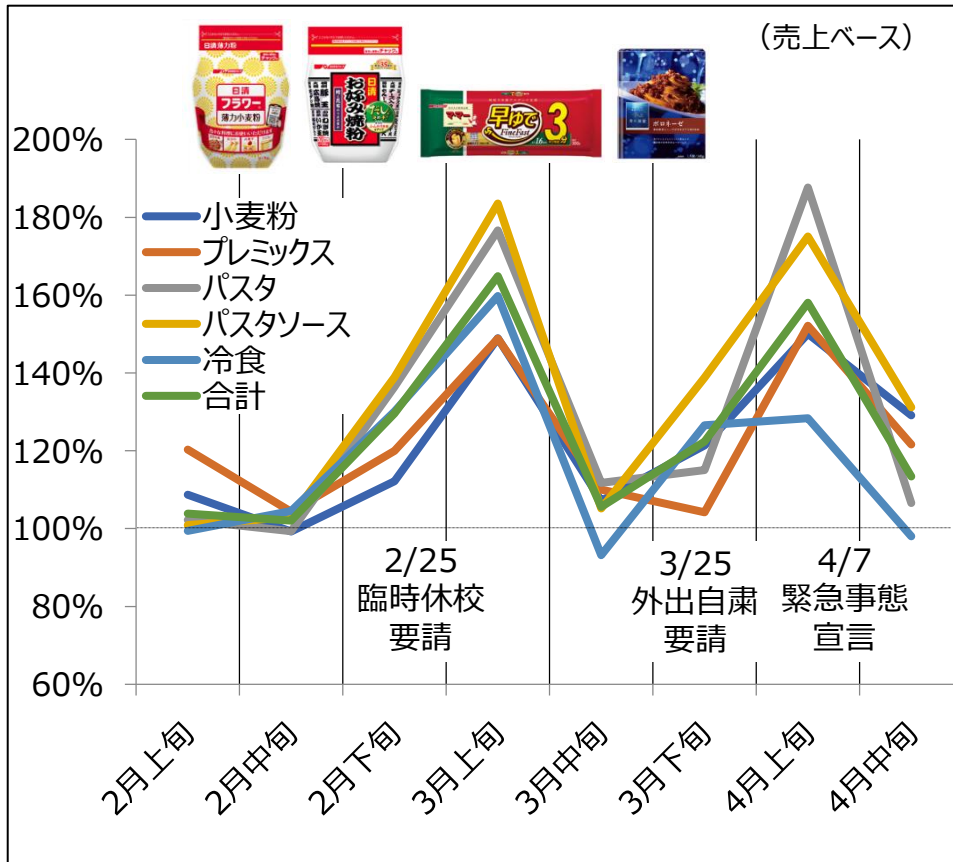
5. 新型コロナウイルス感染症発生後の 製品の需要変動①（家庭用）

健康と信頼をお届けする

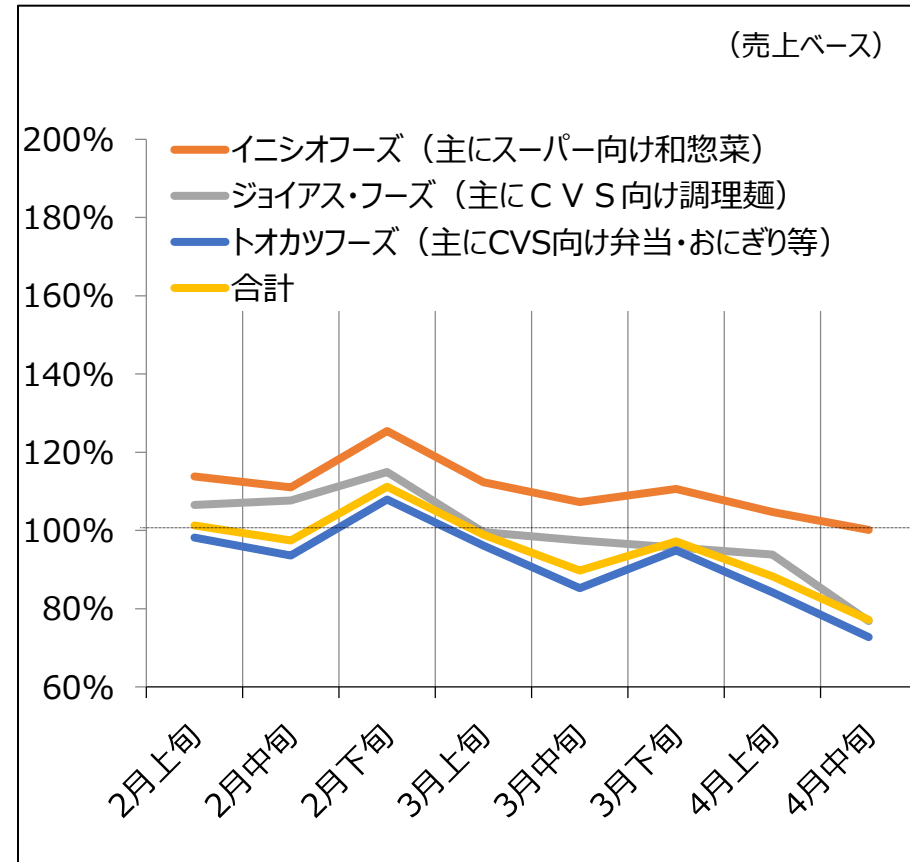


- ・**家庭用加工食品**は、2月末の臨時休校要請後、**爆発的な需要増**が発生。3月下旬以降も「外出自粛要請」、「緊急事態宣言」等を受け**断続的な需要変動**が継続
- ・**中食・惣菜**は、スーパー向けは前年並みで推移。**都市部・行楽地のCVS**で**需要低調**

家庭用 加工食品販売 前年比推移



中食・惣菜販売 前年比推移



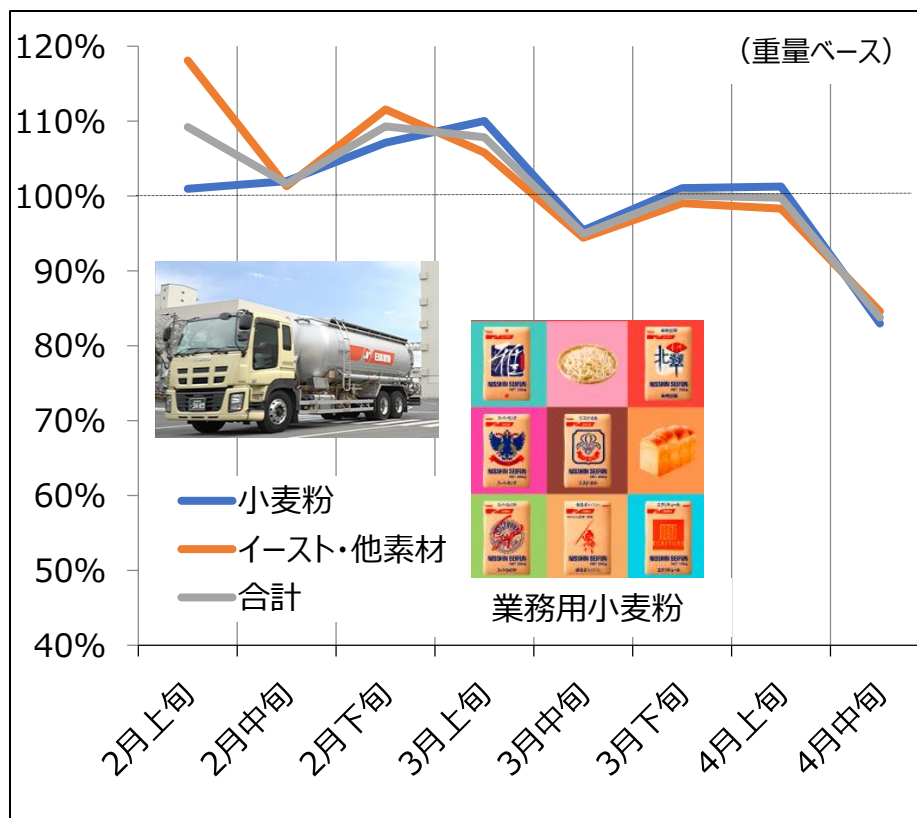
5. 新型コロナウイルス感染症発生後の 製品の需要変動②（業務用）

健康と信頼をお届けする

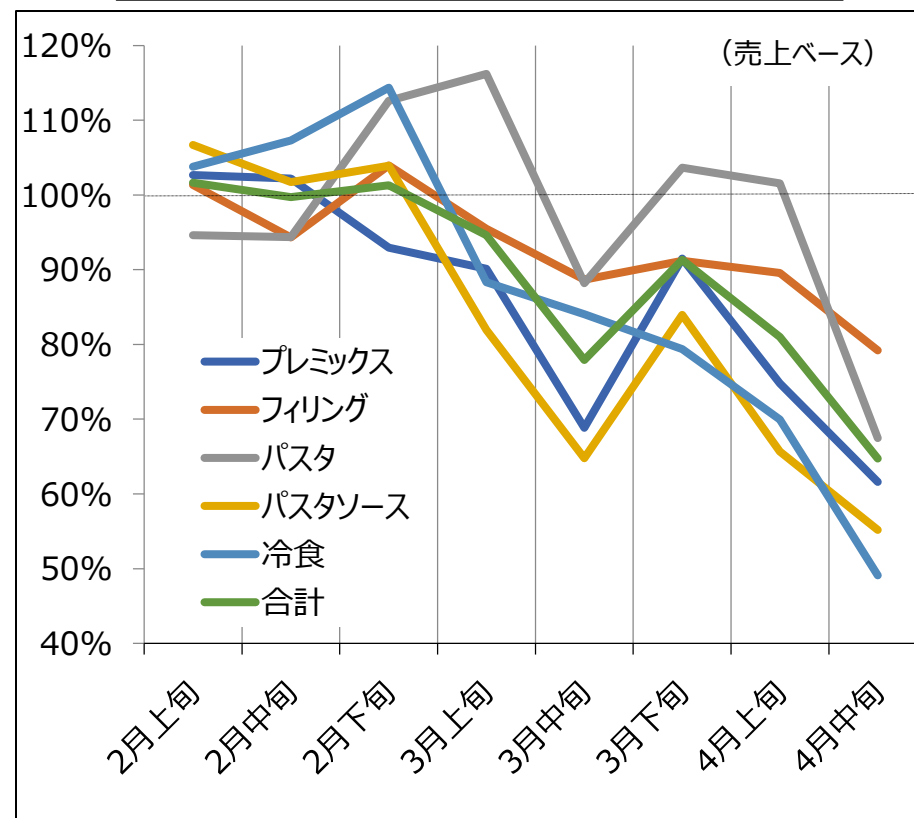


- ・業務用小麦粉・イーストを始めとする**食品素材製品**は、全国的な消費低調やインバウンド需要の停滞等を反映し、**前年を若干下回る水準**で推移
- ・**業務用加工食品**は、外食需要の低調を反映し、**大きく需要減少**

業務用 食品素材販売 前年比推移



業務用 加工食品販売 前年比推移



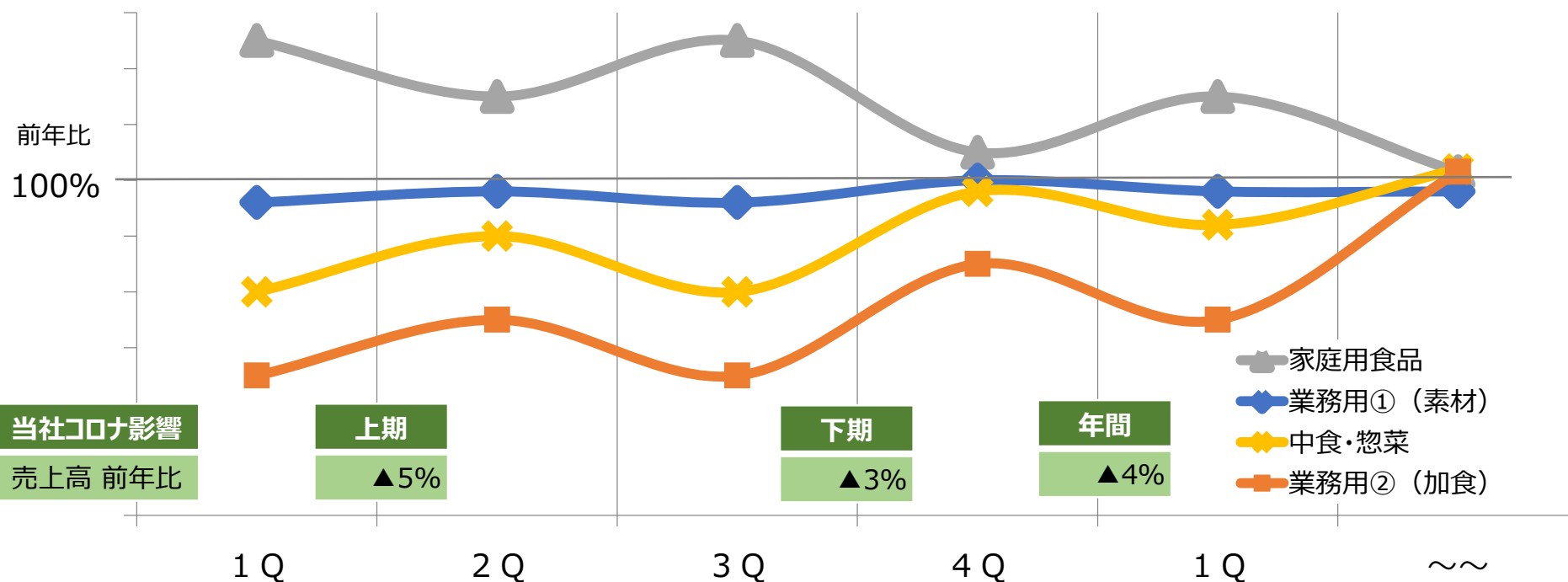
6. 新型コロナウイルス影響（国内）

～ 2020年度の需要変動想定（時系列）～

健康と信頼をお届けする



- ・2020年度は年間を通じて、**感染症の一時的な拡大と収束を繰り返す**、経済活動は波動的に変化。感染症対策の効果で、**時間の経過とともに回復に向かう**と想定
- ・需要変化の波動は、経済活動の停滞期は家庭用食品への需要シフト、経済活動の再始動に応じ、業務用食品や中食・惣菜への需要シフトが発生するサイクルが継続



2020年度「その他セグメント」における新型コロナウイルスの影響（想定）

- ・設備工事 設備投資の一時休止、営業活動が行えない影響等により減収
- ・メッシュクロス 自動車産業の停滞等により減収

7. 新型コロナウイルス影響（海外） ～ 各地域における海外事業の状況 ～

健康と信頼をお届けする

 日清製粉グループ

北米

- ・製粉事業は需要減少。
人件費上昇する中、マージン改善で吸収（P18参照）
- ・米国パスタ工場は日本向け製品を順調に供給

南・西アジア

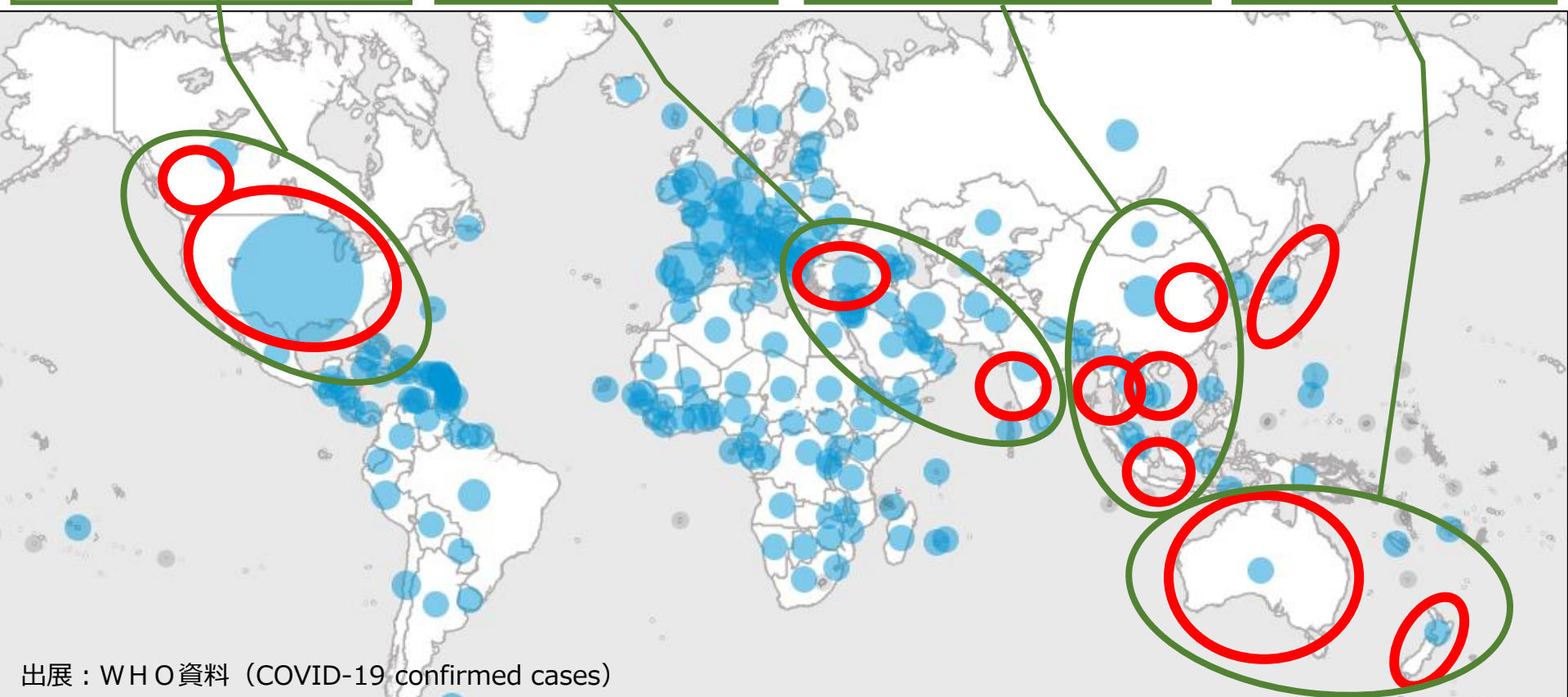
- ・トルコパスタ工場は日本向け製品を順調に供給
- ・インドのイースト新工場建設は一旦中断

東南アジア

- ・製粉事業は需要減少するも、新規獲得で前年並み
- ・プレミックス事業は需要減少
- ・タイ、ベトナムのパスタソース工場は日本向け製品を順調に供給

オセアニア

- ・製粉事業はインバウンド需要停滞を含め、需要減少（P18参照）



出展：WHO資料（COVID-19 confirmed cases）



Ⅲ. 2021年3月期 業績予想

1. 2021年3月期 業績予想①

健康と信頼をお届けする



- ▶ 売上高は、ペットフード事業の譲渡、一時的な設備工事の完工高の減少を、中食・惣菜事業の新規連結効果等がカバーするが、製粉、中食・惣菜、設備工事等の感染症影響による需要減等を想定し、**減収**
- ▶ 営業利益は、ペットフード事業の譲渡、一時的な設備工事の完工高減少による減益を、製粉海外事業の業績回復、国内加工食品や医薬品原薬事業がカバーするが、感染症影響による需要減等を想定し、**減益**

(単位：百万円)	2021年3月期 業績予想	2020年3月期 実績	前年差	前年比
売上高 (内、感染症影響)	700,000	712,180	▲12,180 (▲27,200)	▲1.7% (▲4%)
海外売上高比率	23.2%	23.3%	—	—
営業利益 (内、感染症影響)	26,000	28,852	▲2,852 (▲3,000)	▲9.9% (▲10%)
経常利益	27,000	31,434	▲4,434	▲14.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	17,000	22,407	▲5,407	▲24.1%

※金額は百万円未満切り捨て

1. 2021年3月期 業績予想②

～ 業績予想達成に向けた取り組み ～

健康と信頼をお届けする



新しい生活様式の形成といった社会変化に適合し、「信頼される」会社であり続けるために、主要食糧を始めとする製品・サービスを安定的に消費者に提供できる長期的持続可能性（サステナビリティ）を重視し、そのための戦略的投資の継続を基本とする

■ 新しい生活様式、経営環境変化を見据えた当社グループの取り組み

行動の変化	市場の変化	今期業績予想達成に向けた当社の対応
・外出機会の減少	・感染症に伴うパン・菓子等の専門店・路面店市場の低調 ・外出自粛に伴う外食産業の停滞	・大切な顧客基盤の商圏確保 － 食の多様性を生むパン・菓子等の専門店・路面店市場の活性化 ・簡便性等の外食向け高付加価値素材の提供
・家庭内で過ごす時間の増加	・家庭内調理頻度の増加	・安定供給の継続 － 業務用ラインを活用した家庭用製品供給等、供給体制の柔軟性強化
	・必需品や定番品の再評価 ・内食のバラエティ・ニーズの高まり	・マーケティング統括組織「CRM推進部」新設（加工食品） － 家庭用メニュー提案等を含めた主要食品の啓蒙や新たな食シーン・市場ニーズに応じた製品開発、デジタルマーケティングを活用したブランド強化
	・家庭内調理の時短ニーズの増加	・中食・惣菜事業での食卓をサポートする製品開発 － 即食性・機能性・美味しさ等の商品価値向上
	・非接触型流通の更なる普及 持ち帰り、デリバリー需要の増加	・デジタルマーケティング施策の強化 － eコマース向け製品開発と強化 ・大手外食・流通専任組織「広域営業部」新設（製粉） － 経時変化耐性のある製品開発、製品提案の強化等
	・ストレス増加、運動不足等による健康意識の高まり	・健康食品の販促強化 － eコマース用ポストインタイプ包材、コールセンター自動化
・テレワークの定着 移動頻度の減少	・企業のWEB環境の整備促進 ・会議・商談機会の減少	・IT技術を活用した得意先への提案機会確保とニーズへの的確な対応 ・社内会議のWEB化、事務のリモート化推進
・景況感悪化に伴うコスト意識の変化	・あるべき利益を守るために必要な体制・投資の見直し	・不要不急の工事を抑制、広告宣伝の効率化 ・テレワーク活用による労働生産性向上と一般経費の効率化徹底

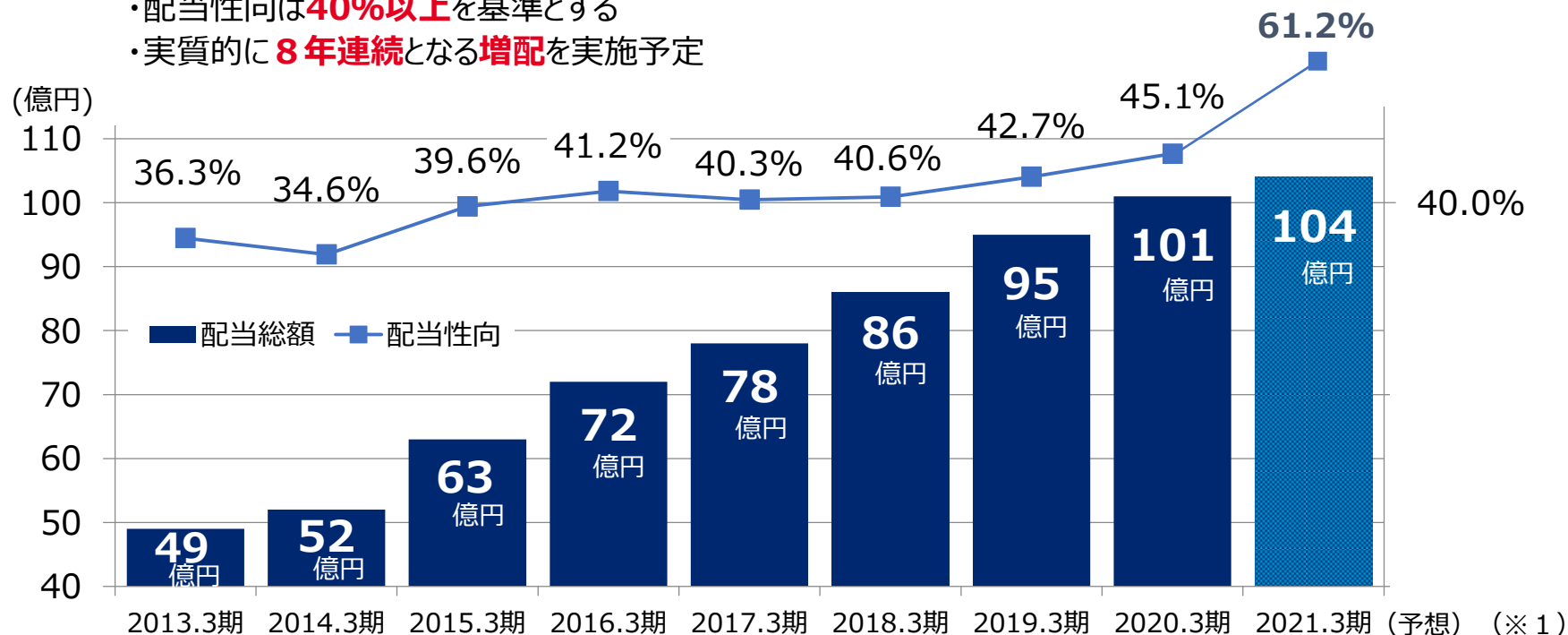
2. 株主還元

健康と信頼をお届けする



配当総額と配当性向の推移

- ・配当性向は**40%以上**を基準とする
- ・実質的に**8年連続**となる**増配**を実施予定



1株当たり
配当金

20円 20円 22円 24円 26円 29円 32円 34円 35円

実質的に8年連続の増配を実施予定 (※1)

2年連続で1株を1.1株に株式分割し、実質増配 (※2)

(※2) 2013年10月1日付け、2014年10月1日付けにて、1株を1.1株に株式分割を実施。1株当たり配当金を据え置き実質増配

(※1)

2020年3月期は、中間配当で1株当たり1円増配実施、期末配当は同1円増配予定
2021年3月期は、期末で1株当たり1円増配予定



IV. 長期ビジョン

「NNI “Compass for the Future”」の取組み

1. 海外製粉事業の成長戦略①

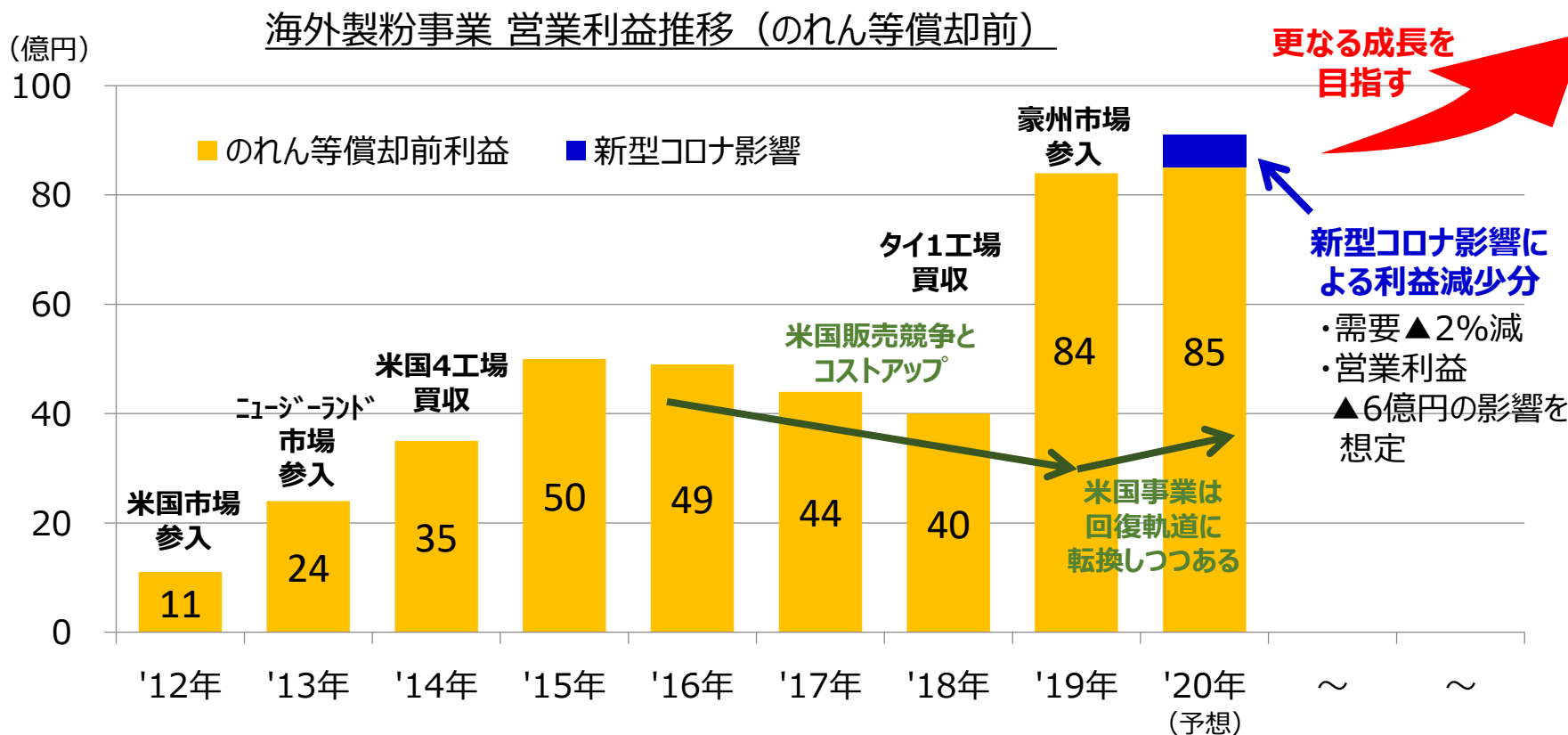
～ 海外製粉事業の今後の展望 ～

健康と信頼をお届けする



日清製粉グループ

- ・海外製粉事業は、北米、アジア、オセアニアで戦略投資を進め、事業基盤は飛躍的に拡大
- ・苦戦中の**米国事業は回復軌道**へ向かっており、今後、更なる成長を目指す
- ・世界で新型コロナウイルス感染症が大きな経営リスクとなる中、各国拠点は東京本社と連携し、早期に予防策を実施。現時点で**事業継続の支障はないが、需要減少リスク**を想定



1. 海外製粉事業の成長戦略②

～ 米国製粉事業、豪州製粉事業 ～

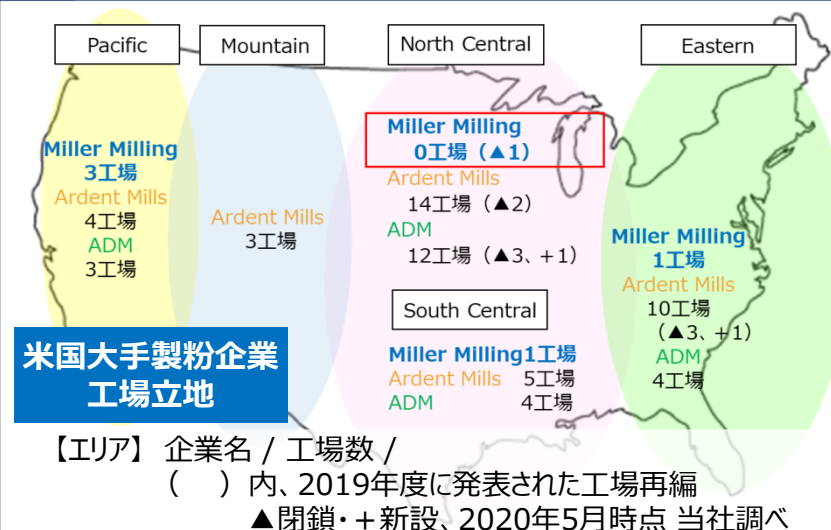
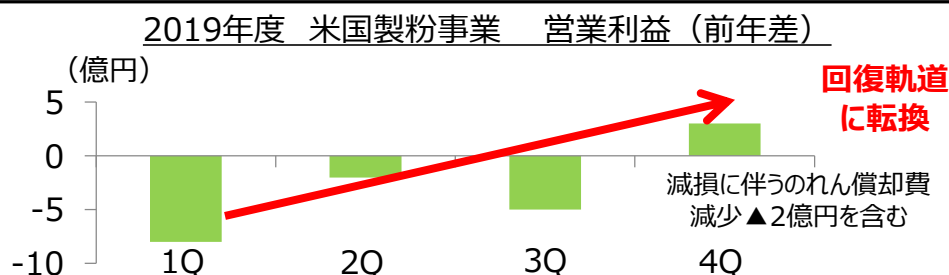
健康と信頼をお届けする



日清製粉グループ

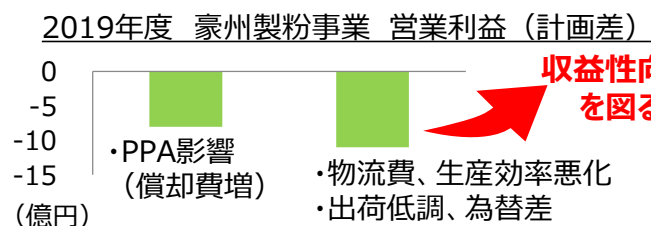
米国製粉事業（ミラー・ミリング・カンパニーLLC）業績回復の状況

- ・昨年12月、ミネソタ州ニュープラーグ工場を閉鎖し、**生産体制を効率化**。経営資源を成長地域に集中
- ・販売競争の中、地道な営業活動を重ね、**マージン改善効果も発現**。米国事業は着実に**回復軌道に転換**



豪州製粉事業（アライド・ピナクル Pty Ltd.）競争力強化の取組み

- ・昨年買収後に取り組む**ガバナンス・オペレーションの統合は順調**
- ・一方、事業計画に対しては、新型コロナ影響による高付加価値市場やインバウンド需要の停滞、新規顧客開拓の遅れ、物流コスト上昇やベーカリー原材料の生産効率悪化への対応が課題
- ・今期は、**販売拡大と供給体制の効率化による収益性向上を図る**



物流改善プロジェクト

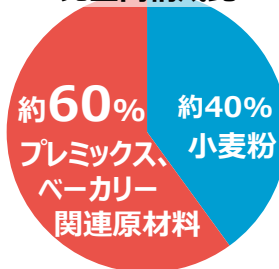
輸送会社を一元化し積載効率や配送効率を高め、**物流コストを改善**

■アライド・ピナクルの物流の特徴

- ・豪州全土に**納品先**を有する顧客基盤
- ・ベーカリー原材料等の**アイテムも多く**
- ・**配送ルートも複雑**



■アライド・ピナクル 売上高構成比



2. 海外食品事業の成長戦略

～ イースト事業、業務用プレミックス事業の拡大 ～

健康と信頼をお届けする

日清製粉グループ

新型コロナウイルス感染症の影響で市場が停滞する中、将来のアジア事業拡大を見据え、**ベトナムのプレミックス新工場が竣工。インドのイースト新工場は、工事を中断し再開を待つ**

OY インド Pvt.Ltd. (オリエンタル酵母工業(株)子会社)

➤ 日本からの建設要員は一時帰国。工事を中断し再開を待つ。新工場は工事再開から半年程度で稼働予定

ベトナム日清テクノミック Co.,Ltd.

➤ '20年1月から工場が稼働、新設のR&Dセンターを活用し差別化ニーズに応える製品の開発を進める

インド市場の成長性

インドの巨大パン市場でイースト事業の高成長を期待

日本の技術優位性

高品質でコスト競争力ある製品を供給

ASEAN市場の成長性

経済成長に伴いASEANのプレミックス市場は着実に成長

日本の技術優位性

顧客ニーズに応える差別化された製品を供給

立地優位性

原料の糖蜜や水資源が豊富なブネ市近郊に工場建設

万全の環境対策

Zero Liquid Discharge Systemで工場外排水ゼロ

立地優位性

質の高い人材と海外向け加工食品の生産基地としての発展性

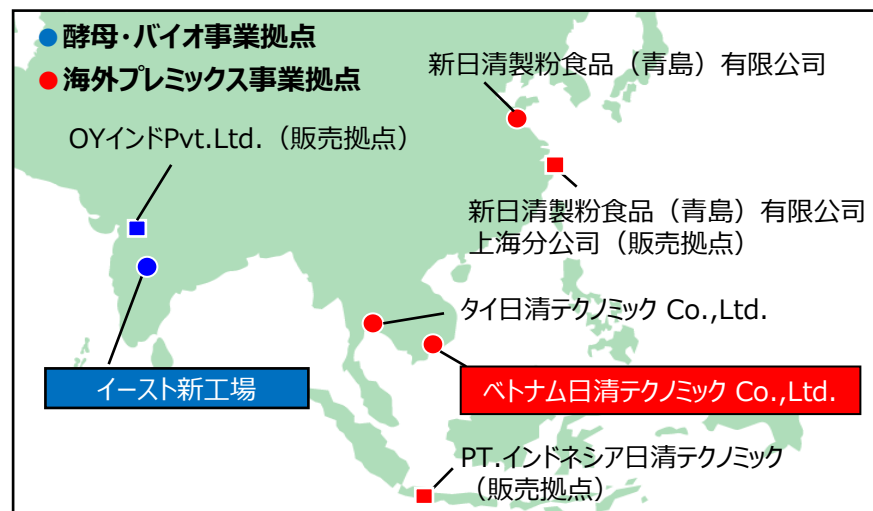
タイ・中国との連携

タイ・中国の既存プレミックス拠点とグローバル連携を充実

インド工場の概要

【生産能力】 100トン/日
(生イーストベース)
【完工時期】 工事再開後半年程度
【投資額】 約157億円

建設中の新工場



ベトナム工場の概要

【生産能力】 9,000トン/年
【稼働時期】 2020年1月
【投資額】 約17億円

新工場



3. 加工食品の差別化戦略 ～ 高付加価値製品の開発 ～

健康と信頼をお届けする

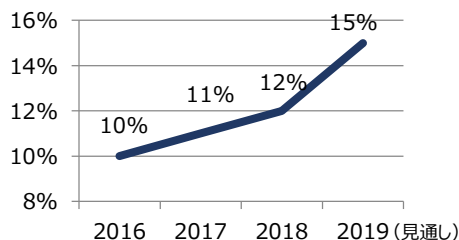


市場環境の変化をとらえ、「簡単・便利」「本格」「健康」をキーワードに 高付加価値製品の開発を推進

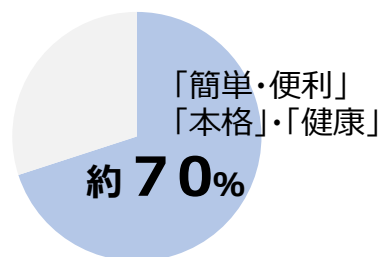
「簡単・便利」「本格」「健康」製品の売上構成

- 加工食品における高付加価値カテゴリーの売上構成比率は、
毎年拡大。市場の変化をとらえ、取組みを**更に加速**

「簡単・便利」・「本格」・「健康」製品の
家庭用加工食品に占める売上構成比率



2020年春の新製品
リニューアル品目数の割合



マ・マー 早ゆでスパゲティ Fine Fast

- 早ゆでスパゲティは**一貫して好調を持続**。この春、シリーズ名を早ゆで
スパゲティ FineFastに改め、小鍋でも調理しやすい**2/3サイズの**
新製品を投入し、ブランド強化を図る

FineFast(ファインファスト)製法



消費者ニーズ
にとことん
お応えする
新スタイルの
スパゲティ

早ゆでシリーズ売上高

出所:インテージSRI



マ・マー THE PASTA

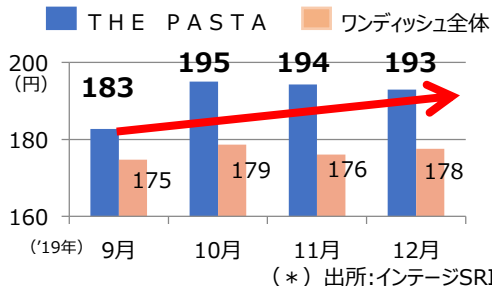
- 品質設計・パッケージデザインを刷新、価格帯も見直し、
付加価値アップに成功

パッケージデザイン

横型から縦型にして
店頭の視認性アップ



THE PASTA平均単価推移(*)



早ゆでスパゲティ 業務用に本格展開

- 2020年春に早ゆでスパゲティ1.6mm 500gを新発売
➤業務用市場の**人手不足の課題**に「早ゆで」で対応していく

業務用食品業界の**人手不足の課題**に着目し、
課題解決につながる「美味しい簡便食」のご提案



乾麺なのに
茹で時間**3分**。

4. 中食・惣菜事業の成長戦略

～ 総合中食・惣菜メーカーに向けて ～

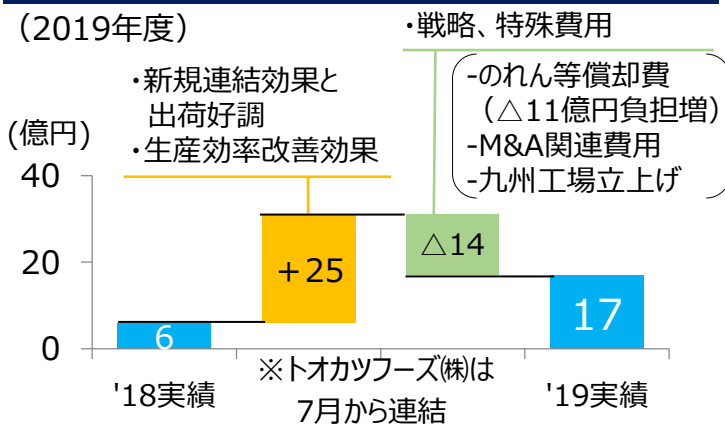
健康と信頼をお届けする



2019年度は、新型コロナウイルス対策の外出自粛の影響等で**第4四半期に需要が減速**したが売上高1,300億円(前年比+197%増収)、営業利益17億円(同+204%増益、のれん等償却前+312%増益)と年間では**好業績の着地**。自動化検討も着実に進捗

中食・惣菜事業 営業利益増減分析

(2019年度)



中食・惣菜事業 ビジネスモデル

課題

- ・人口減少
- ・人手不足問題

機会

- ・高齢化
- ・単身世帯の増加
- ・女性の就労増加
- ・多様化ニーズ
- ・製品安全ニーズ

当社の体制

惣菜商品
フルラインアップ
体制

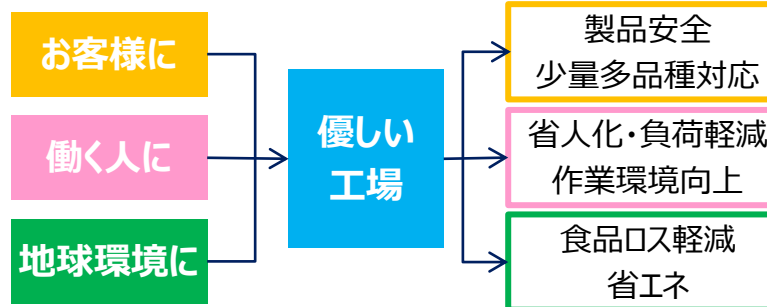
当社の
強み

- ・研究開発力
- ・生産技術力
- ・生産及び品質管理ノウハウ
- ・全国的な生産拠点
- ・グループの幅広い事業領域

高度に事業化されたビジネスモデルへの転換

惣菜工場の将来ビジョン

将来のあるべき**惣菜工場の理想モデル**に向けて、**自動化技術の実用化検討**を推進。社会的・経済的価値を創出する「優しい工場」の開発を目指す



グループの事業部門と技術部門の最優先課題。
全工程の検討を完了し、
3～5年程度で段階的な
技術確立を目指す

(生産拠点)

2020年3月現在

- イニシオフーズ (5拠点)
- ジョイアス・フーズ (2拠点)
- トオカツフーズ (18拠点)

九州 ●1拠点
●1拠点

東北 ●3拠点

関西 ●1拠点
●1拠点
●4拠点

中部 ●1拠点

関東 ●2拠点
●1拠点
●10拠点

5. 日清ファルマ医薬品原薬「EPA-E」の需要拡大

健康と信頼をお届けする

日清製粉グループ

- ・Amarin Corporation plc（以下、アマリン社）の高脂血症治療薬「Vascepa®」の需要は順調に拡大
- ・原薬「EPA-E」の需要増加に対応すべく、日清ファルマは生産能力増強を昨年9月に完了。オペレーターの戦略的配置と作業の効率化により段階的な生産性アップを図る。また、市場動向を見極めながら更なる能力増強も検討

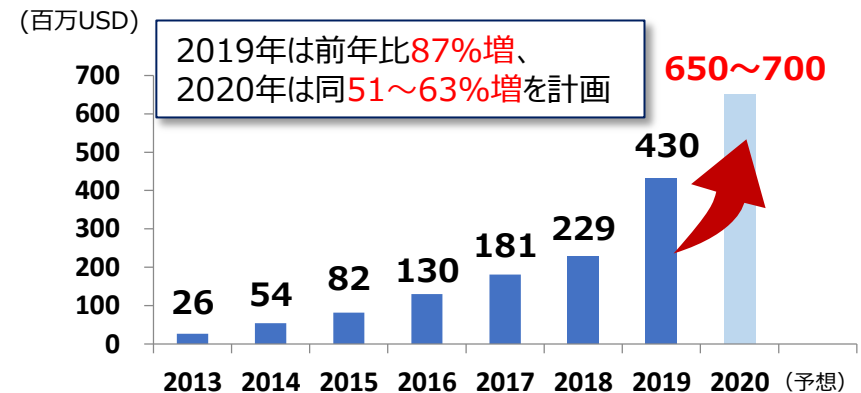
Vascepa®のこれまでの販売状況

- アマリン社は2013年にEPA-Eを高純度で含有する高脂血症治療薬「Vascepa®」を米国で上市
- 2019年12月に追加薬効が承認され、米国における適用患者数が大幅に増加（約380万人から約3,800万人）すると期待されている
- 日清ファルマは2012年より独自の技術で精製した高純度のEPA-E原薬をアマリン社へ供給継続

アマリン社 直近のトピックス

- 販売員を400人から800人へ増員
- 追加薬効承認前の薬効に関する特許を係争中
- 米国外への展開
 - カナダ：2020年1月に薬効が承認、2020年2月から販売開始
 - 中東(レバノン・UAE)：販売承認済みだが、販売開始時期は現在未定
 - 中国：現在臨床試験中で、2020年後半に終了を見込む
 - 欧州：2020年末までに承認予定とアマリン社からアナウンス

アマリン社の売上高推移



事業機会とリスク認識

機会

- 米国の需要増（追加薬効の効果）
- 他国への新展開（カナダ・中東・中国・欧州）
- 世界的な心血管疾患の患者数増加

リスク

- ジェネリック製剤の上市
- 新規参入によるEPA-E原薬市場の競争激化

6. その他セグメントの状況 (エンジニアリング事業)

健康と信頼をお届けする



- ・エンジニアリング事業は、事業環境に波がある中、直近3年間は堅調に受注を獲得。この結果2019年度のその他セグメントは**過去最高の営業利益**を達成
- ・2020年度は一時的な設備工事の減少が見込まれ、また、新型コロナウイルス感染症の影響による設備投資の足踏み、営業活動の難航等から、**一時的に完工高が減少**する見通し

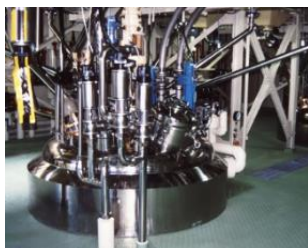
エンジニアリング事業の特徴

- ・世界トップレベルの粉粒体技術、ユーザー目線のプラント設計を強みに、食品や化粧品、金属・電子材料等のプラントから穀物サイロ、バイオマス発電燃料サイロ、搬送設備等まで手掛ける
- ・中長期的には食品工場の自動化ニーズ等も多く、プラントの受注環境は堅調に推移する見通し。強みの粉体技術を活かした**プラントエンジニアリング**を中核に展開を強化
- ・新型コロナウイルスによるプラント需要への影響は現時点で不透明

惣菜工場



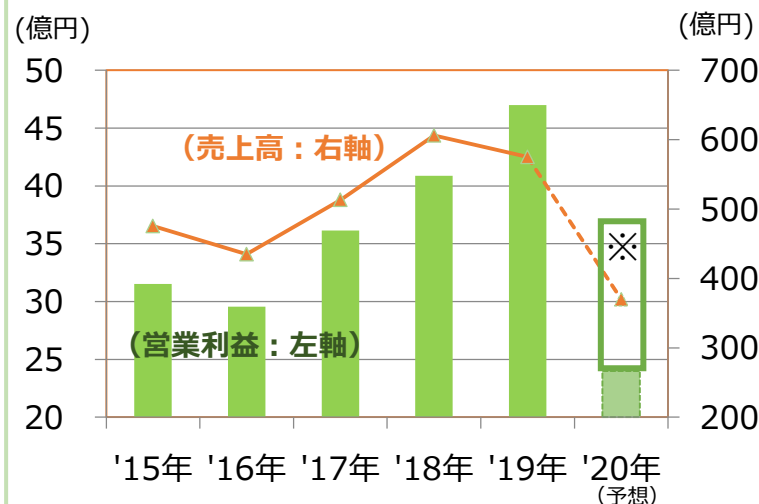
トイレタリー製品工場



電子材料プラント



その他セグメント売上高、営業利益の推移



(※) 特殊要件

- ・**ペットフード事業譲渡**による利益減少
- ・**新型コロナウイルス影響**による、メッシュクロス・設備工事の減益



(参考) 小麦相場の状況

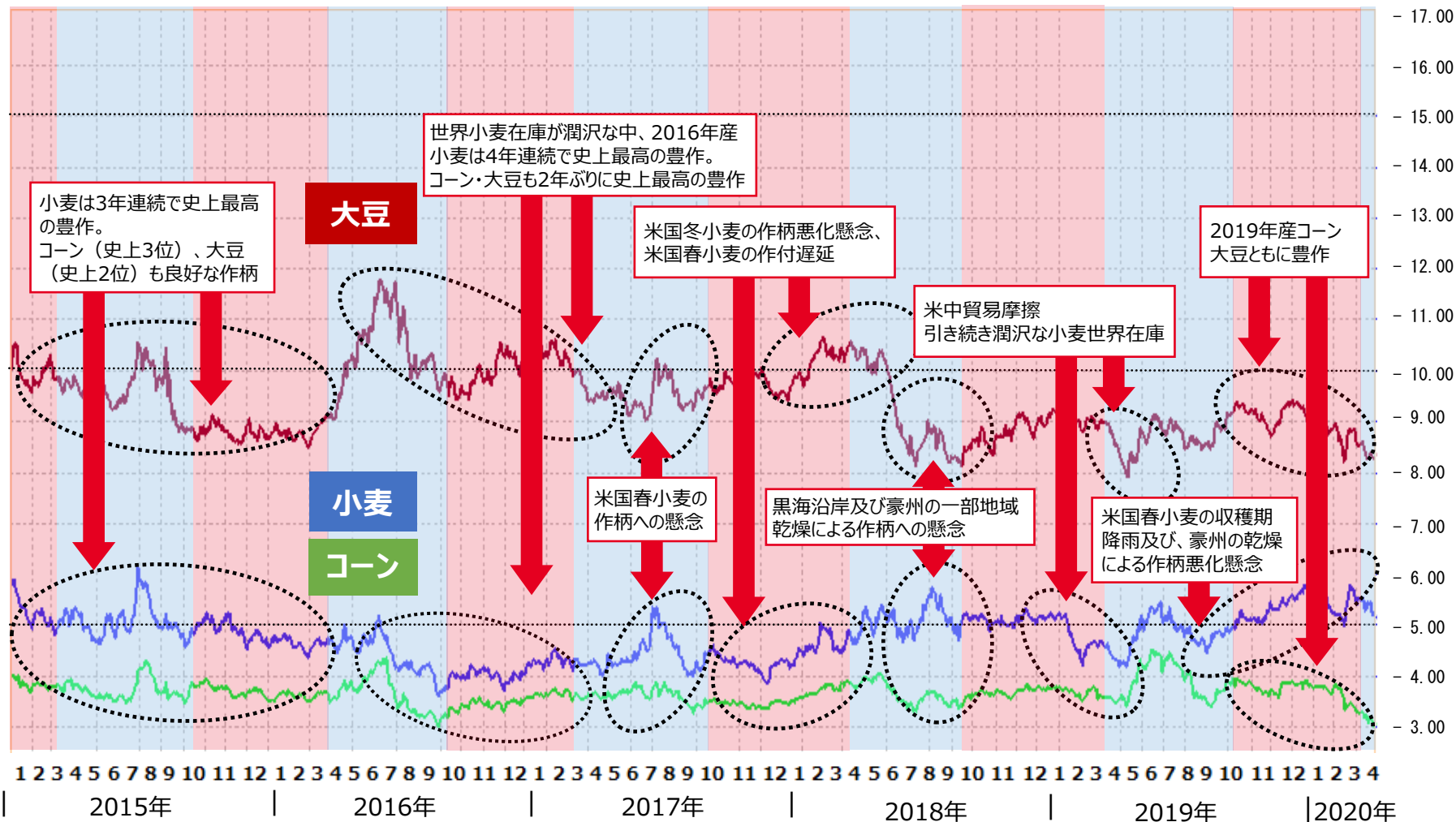
小麦相場の状況（１）

健康と信頼をお届けする



【穀物相場推移】

シカゴ先物相場 （単位：US \$ / Bu）



注）グラフの背景の色は、農水省の輸入小麦売渡価格算定期間ごとに色分けしている

【2020年4月期 麦価改定】（改定額算定期間：2019年9月第2週～2020年3月第1週）

小麦相場（シカゴ）は、昨年9月以降の米国産小麦の寒波による作付け影響懸念や豪州産小麦の乾燥による減産見通し等により上昇。海上運賃も堅調に推移したことから、小麦の輸入価格は上がった。



2020年 4月 1日 ～ 輸入小麦政府売渡価格 5銘柄平均 **3.1%値上げ**

2020年 6月 20日 ～ 日清製粉(株)業務用小麦粉を値上げ

【今後の小麦相場の変動要因】

上昇要因

- ・2020年産米国冬小麦の乾燥による生育懸念及び収穫期の降雨に伴う作柄悪化懸念
- ・2020年産北米春小麦の作付け遅れに伴う、作柄悪化懸念

下落要因

- ・2019年産生産量増加に伴う潤沢な世界小麦在庫見通し
- ・燃料油価格の下落に伴う、海上運賃の低下



2020年3月期 決算説明

実績、業績予想

2020年5月18日

株式会社日清製粉グループ本社



目次



1. 貸借対照表 (実績)
2. キャッシュ・フロー計算書 (実績)
3. 2020年3月期 損益計算書 (実績)
4. 2021年3月期 損益計算書 (業績予想)
5. 新型コロナウイルス影響
6. セグメント別 実績・業績予想 分析

1. 貸借対照表① (実績)【資産】

健康と信頼をお届けする



豪州のアライド・ピナクル Pty Ltd.、トオカツフーズ^(株)のM & Aにより、**手許資金は大幅に減少**
一方、有無形固定資産の増加により、**総資産は6,662億円に拡大**

【資産】(億円)	2019年3月末 実績	2020年3月末 実績	前年差	主な増減内容
流動資産	2,681	2,389	▲291	
手許資金	1,093	572	▲520	アライド・ピナクル、トオカツフーズ取得関連
受取手形及び売掛金	762	922	159	
たな卸資産	733	798	65	
その他	92	96	3	
固定資産	3,265	4,272	1,006	
有形固定資産	1,563	2,084	521	新規連結(アライド・ピナクル、トオカツフーズ)
無形固定資産	104	687	582	
のれん	50	427	377	アライド・ピナクル、トオカツフーズ取得関連
その他	54	259	205	アライド・ピナクル、トオカツフーズ取得関連 (顧客関連資産)
投資その他の資産	1,598	1,500	▲97	
投資有価証券	1,496	1,357	▲139	時価低下、トオカツフーズ子会社化
その他	101	142	41	
資産合計	5,947	6,662	714	新規連結(アライド・ピナクル、トオカツフーズ)

※金額は億円未満切り捨て

1. 貸借対照表② (実績)【負債・純資産】

健康と信頼をお届けする



事業拡大に伴う32年ぶりの起債、長期借入金の増加等で、自己資本比率は59.3%に低下、**バランスシートのモデルチェンジ**が進展する一方、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、長期的持続可能性が一層重要になる中、**資本効率の向上と財務の安定性**のバランス確保が重要

【負債・純資産】 (億円)	2019年3月末 実績	2020年3月末 実績	前年差	主な増減内容
流動負債	1,148	1,310	162	
支払手形及び買掛金	549	537	▲12	
その他	598	773	174	
固定負債	610	1,261	650	
社債	—	200	200	
長期借入金	67	152	84	
リース債務	7	309	302	新規連結(アイト・ヒナカル、トカツワズ)
その他	535	598	63	
負債合計	1,759	2,571	812	新規連結(アイト・ヒナカル、トカツワズ)
株主資本	3,383	3,509	126	
その他の包括利益累計額	656	440	▲215	
非支配株主持分等	149	140	▲8	
純資産合計	4,188	4,090	▲98	
負債純資産合計	5,947	6,662	714	
(参考) 自己資本比率	67.9%	59.3%	▲8.6%	※金額は億円未満切り捨て

2. キャッシュ・フロー計算書（実績）

健康と信頼をお届けする



日清製粉グループ

(億円)	2019年 3月期	2020年3月期		増減	
		実績	実績の主な内容		
現金及び現金同等物の 期首残高	984	1,073		+89	手許資金* 1,093
営業活動によるC F	398	384	税金等調整前当期純利益 +332 減価償却費 +212 運転資金の増加 ▲67 法人税等の支払額 ▲104	▲14	
投資活動によるC F	▲191	▲968	設備投資（支払いベース）▲219 子会社株式取得による支出 ▲771	▲776	
財務活動によるC F	▲105	83	社債発行による収入 +198 配当金支払額 ▲98	+189	
現金及び現金同等物に係る 換算差額	▲2	▲14		▲12	
連結子会社の決算期変更に伴う 現金及び現金同等物の増減額	▲10	7		+17	
現金及び現金同等物の期末残高	1,073	565		▲508	手許資金* 572

* 手許資金：3ヶ月超預金、運用債券も含める

(億円)	2019年 3月期 (実績)	2020年 3月期 (実績)	増減	2021年 3月期 (業績予想)	増減
設備投資（工事ベース）	187	218	+31 新規連結影響 (アイト・ピナクル、トカツワーズ)	140	▲78 新型コロナウイルス影響 他
減価償却	149	212	+62 新規連結影響 (アイト・ピナクル、トカツワーズ)	220	+7

※金額は億円未満切り捨て

3. 2020年3月期 損益計算書（実績）

健康と信頼をお届けする



(百万円)	2019年3月期 実績	2020年3月期 実績	2020年3月期			
			前年差	前年比	業績 予想差	業績 予想比
売上高	565,343	712,180	+146,836	+26.0%	▲2,819	▲0.4%
（うち海外売上高）	(103,739)	(166,188)	(+62,449)	(+60.2%)	(▲1,011)	(▲0.6%)
営業利益	26,916	28,852	+1,936	+7.2%	▲647	▲2.2%
（うち海外営業利益）	(3,880)	(3,878)	(▲2)	(▲0.1%)	(▲321)	(▲7.7%)
営業外損益	5,146	2,582	▲2,563	▲49.8%	+1,082	+72.2%
経常利益	32,062	31,434	▲627	▲2.0%	+434	+1.4%
特別損益	1,051	1,861	+809	+77.0%	—	—
親会社株主に帰属する当期純利益	22,268	22,407	+138	+0.6%	+407	+1.9%
のれん等償却前営業利益	29,172	37,241	+8,068	+27.7%	▲559	▲1.5%
ROE	5.5%	5.6%	+0.1%	—	+0.2%	—

※金額は百万円未満切り捨て

4. 2021年3月期 損益計算書（業績予想）

健康と信頼をお届けする



(百万円)	2020年3月期 実績	2021年3月期 業績予想		
			前年差	前年比
売上高	712,180	700,000	▲12,180	▲1.7%
（うち海外売上高）	(166,188)	(162,100)	(▲4,088)	(▲2.5%)
営業利益	28,852	26,000	▲2,852	▲9.9%
（うち海外営業利益）	(3,878)	(4,300)	(+421)	(+10.9%)
営業外損益	2,582	1,000	▲1,582	▲61.3%
経常利益	31,434	27,000	▲4,434	▲14.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	22,407	17,000	▲5,407	▲24.1%
のれん等償却前営業利益	37,241	34,200	▲3,041	▲8.2%
ROE	5.6%	4.3%	▲1.3%	—

※金額は百万円未満切り捨て

5. 新型コロナウイルス影響

健康と信頼をお届けする



- ・2020年度は年間を通じて、**感染症の一時的な拡大と収束を繰り返し**、経済活動は波動的に変化。感染症対策の効果で、**時間の経過とともに回復に向かう**と想定。
- ・新型コロナウイルス影響として、**売上高272億円減収、営業利益30億円減益**を見込む。

	新型コロナウイルス 影響額（億円）		内容
	売上高	営業利益	
製粉	▲ 6 5	▲ 1 5	・国内・海外ともに<u>出荷2%減</u>を想定 ・パン・菓子等の専門店・路面店や外食向けの出荷低調による製品ミックス悪化を想定 ・新型コロナウイルス影響を踏まえた経費削減への取り組み
食品	+ 1	+ 2 3	・国内の家庭用製品の出荷増と、業務用素材・加工食品の出荷減を想定 ・新型コロナウイルス影響を踏まえた経費削減への取り組み ・海外加工食品の出荷減やインドイースト工場稼働のずれ込みを想定
中食・惣菜	▲ 1 4 8	▲ 2 9	・都市部や行楽地での<u>出荷減</u>等を想定
その他	▲ 6 0	▲ 9	・エンジニアリング事業の設備工事の遅れによる完工高の減少等を想定
計	▲ 2 7 2	▲ 3 0	

6. セグメント別① 売上高分析（前年差）

健康と信頼をお届けする



*（ ）内の赤字は（単位：億円）
新型コロナウイルス影響額で内数

2019年度 実績 +1,468億円

2020年度 業績予想 ▲122億円 (▲272)

製粉

+608億円

▲117億円 (▲65)

国内小麦粉出荷

▲4 出荷前年比99.8%

▲24 出荷前年比98% ※

麦価改定に伴う粉価改定他

▲3

▲45 ※

ふすま価格

+2

+0

海外売上他

+613 アイト・ピカル新規連結 他

▲48 ※

食品

+29億円

+40億円 (+1)

加工食品国内売上

+19

+39 ※

加工食品海外売上

▲4

▲3 ※

オリエンタル酵母工業売上

▲6

▲5 ※

日清ファルマ売上

+20 EPA-E出荷好調 他

+9 EPA-E出荷好調 他

中食・惣菜

+862億円

+160億円 (▲148)

+862 トカツワズ新規連結 他

+160 トカツワズ新規連結 他 ※

その他

▲31億円

▲205億円 (▲60)

日清ペットフード売上

▲2

▲60 事業譲渡影響

NBCメッシュテック売上

▲1

▲1 ※

設備工事売上他(日清エンジニアリング他)

▲28 大型工事減少

▲144 一時的な完工高減少 他 ※

※…新型コロナウイルス感染症が影響を及ぼす項目

6. セグメント別② 営業利益分析（前年差）

健康と信頼をお届けする



*（ ）内の赤文字は
新型コロナウイルス影響額で内数

（単位：億円）

2019年度 実績 +19億円

2020年度 業績予想 ▲29億円

(▲30)

製粉

+1億円

▲12億円

(▲15)

国内小麦粉出荷数量

▲ 0

▲ 6

※

拡販施策費

+ 2

▲11

※

ふすま価格

+ 1

▲ 2

コスト関連

+ 3

+ 1

※

海外子会社他

▲ 5 米国製粉事業 他

+ 6 米国製粉事業の回復 他

※

食品

+0億円

+28億円

(+23)

出荷数量

+ 4

+12

※

拡販施策費

+ 5 高付加価値化 他

+12 高付加価値化 他

※

コスト関連

▲15 物流費、戦略費用 他

+ 5

※

海外子会社他
(オリエンタル酵母、ファルマ輸出含む)

+ 6 EPA-E出荷好調 他

▲ 1 EPA-E出荷好調
インドイースト工場立上げ費用 他

※

中食・惣菜

+12億円

▲22億円

(▲29)

+12 新規連結、出荷好調 他

▲22

※

その他

+6億円

▲23億円

(▲9)

売上

▲ 6

▲23

設備工事の一時的な完工高減少 他

※

コスト関連他

+12 設備工事好調 他

+0

※

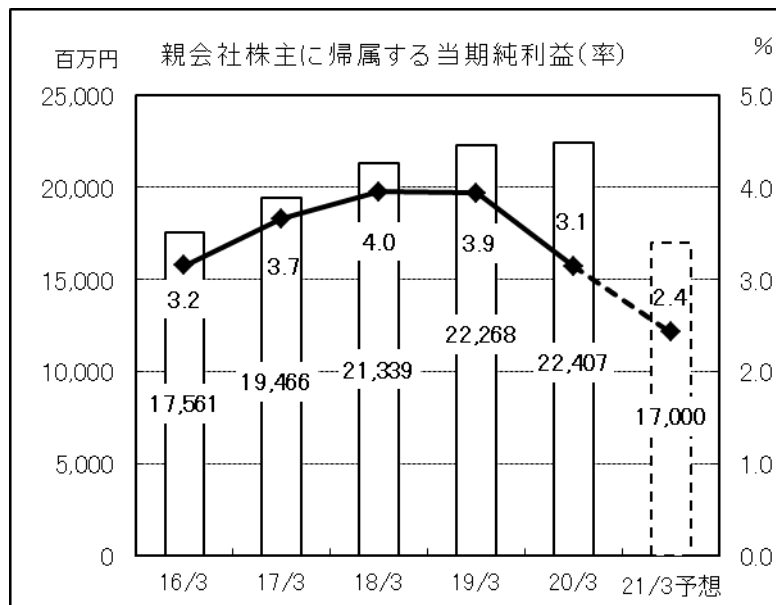
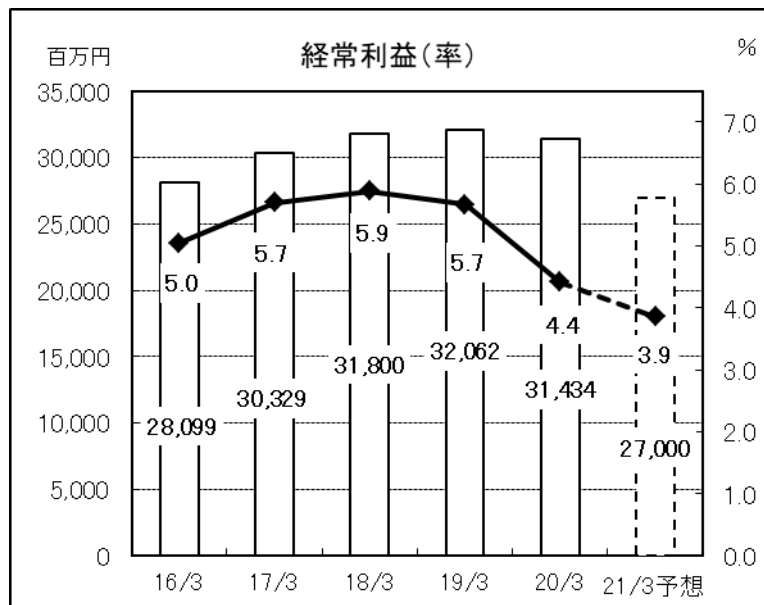
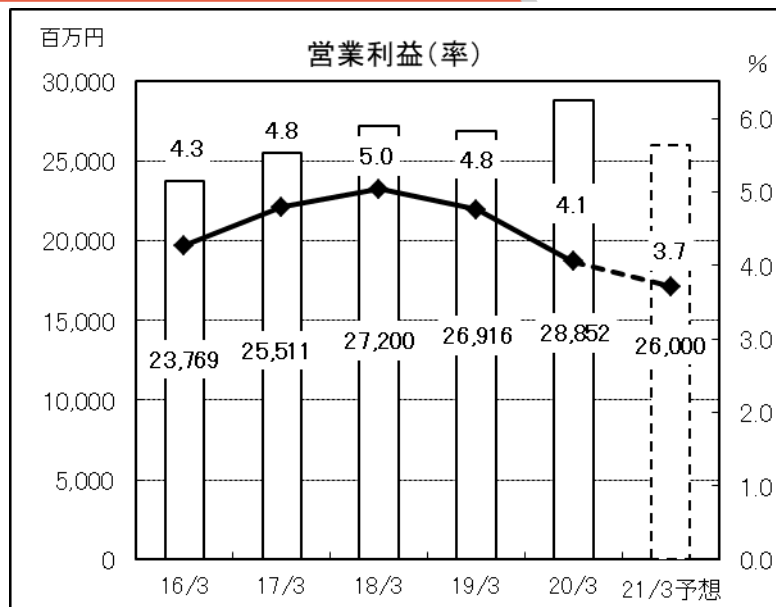
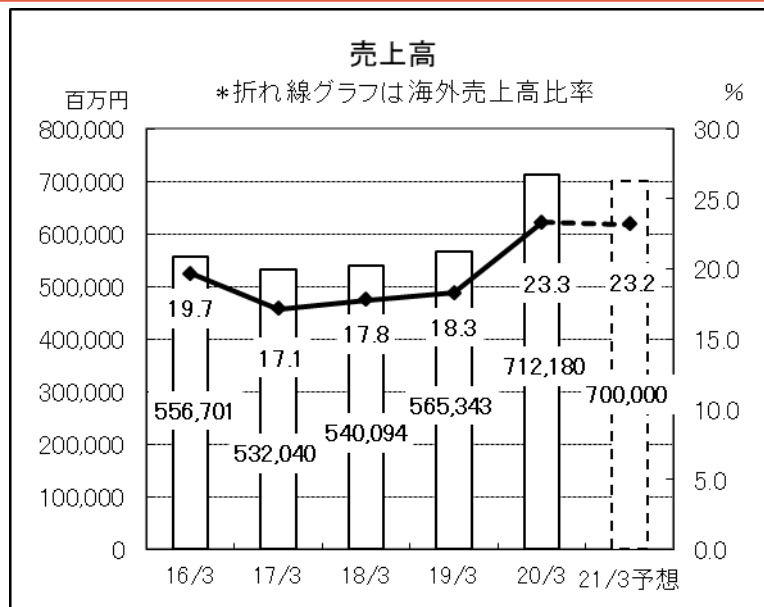
※…新型コロナウイルス感染症が影響を及ぼす項目

(参考) 連結業績推移表

健康と信頼をお届けする



日清製粉グループ





記載内容に関する注意事項

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。